

移る球具



◎ BACKGROUND

■ 遊具が消えていく公園

都市公園には「遊具」が存在する。しかし近年、遊具の老朽化による怪我や事故の発生が周知されたことにより、遊具が相次いで撤去されている。遊具には「子供が遊ぶためのもの」という単一の用途しか備わっていないために、撤去されても人々の生活に影響が出ないものと考えられがちである。

■ 制約の多くなった公園

生活上の街の治安や安全性の確保から、公園内での行為に制約が多くなった。



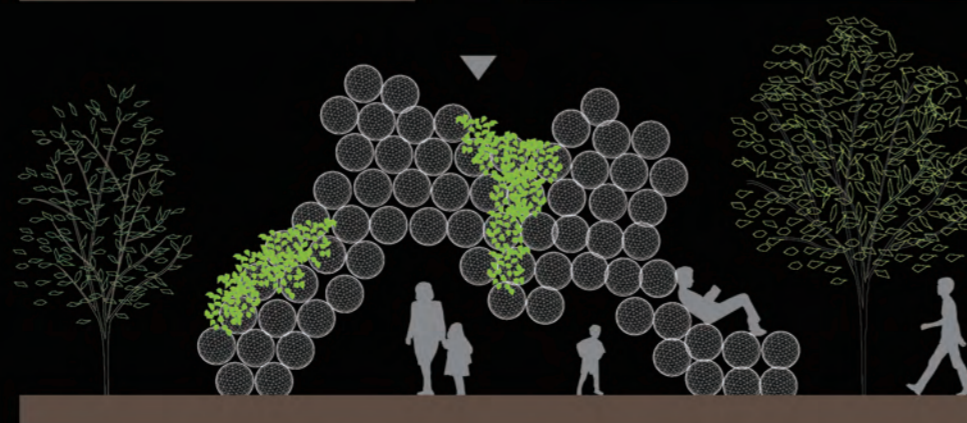
◎ PROBLEM

「遊具」が撤去され、「行為」が制限された現代の都市公園では人々の活動が誘発されるはずもなく、人々が寄り付かない空虚な印象を持った単なる空き地と化している。「遊具」が「子供が遊ぶためのもの」という価値観を転換していくことで新たな都市公園の可能性を見出せるのではないだろうか。

◎ CONCEPT

■ 「遊具」の概念を転換する

「子供が遊ぶためのもの」として扱われてきた「遊具」でなく、「人々のためのもの」となるような多様な使い方のある「球具」を提案する。



多様な使い方ができる「球具」は人々に広く受け入れられ、今ある都市公園の姿を変えることができるのではないだろうか。

◎ MATERIAL

■ 形状記憶合金



変形後にある一定の温度以上になると元の形状に戻る合金。

・ NORMAL METAL



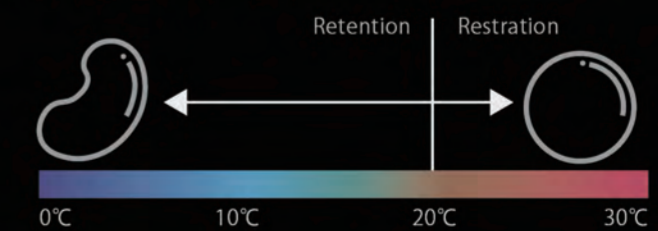
・ SHAPE-MEMORY ALLOY



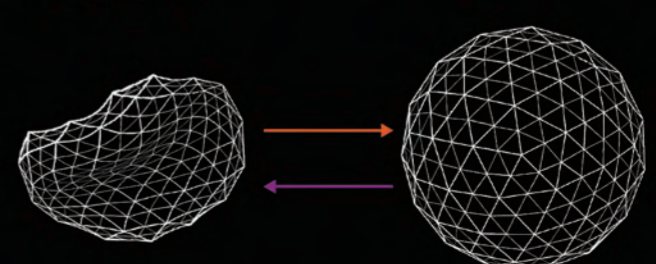
◎ PRESET

■ 設定温度

20℃以上になると元の形状に戻るようあらかじめ設定しておく。～19℃の状態の時に力を加えると、変形したままの形状を保つ。



■ 設定形状

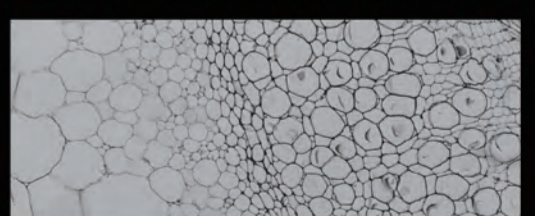


加熱した際、球体に復元するように設定する。

◎ IMAGE

■ 変形する遊具

気温の状態や使い方によって形を変える。その姿はまるで一つの生命体のようなものである。定められた形を持たず、多様な展開をすることで多くの用途に耐えうるものとなる。



■ 触れ合う遊具

人々は遊具と触れ合うことでそれに対して愛着を持ち、それが設置されている場所に対しても愛着を持つようになる。



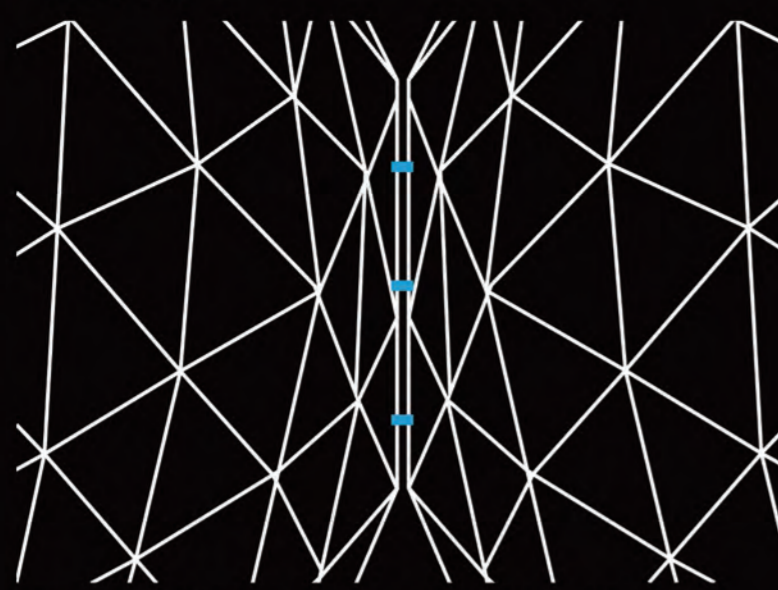
◎ STRUCTURE

■ 基本モジュール SCALE 1:10

■ 接合部



500mm

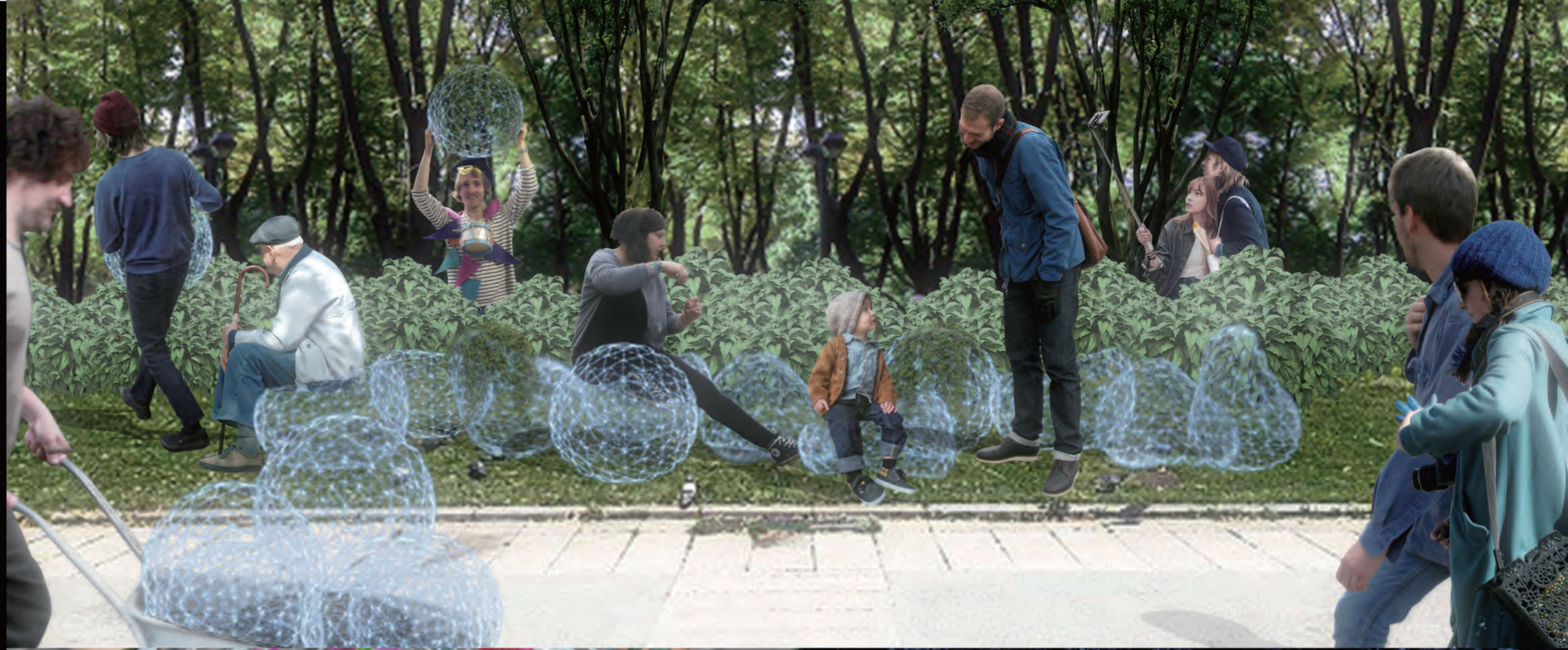
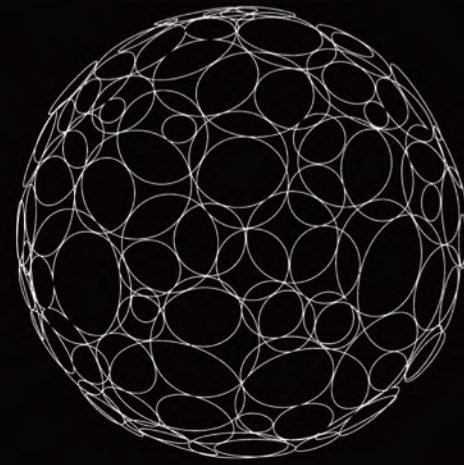
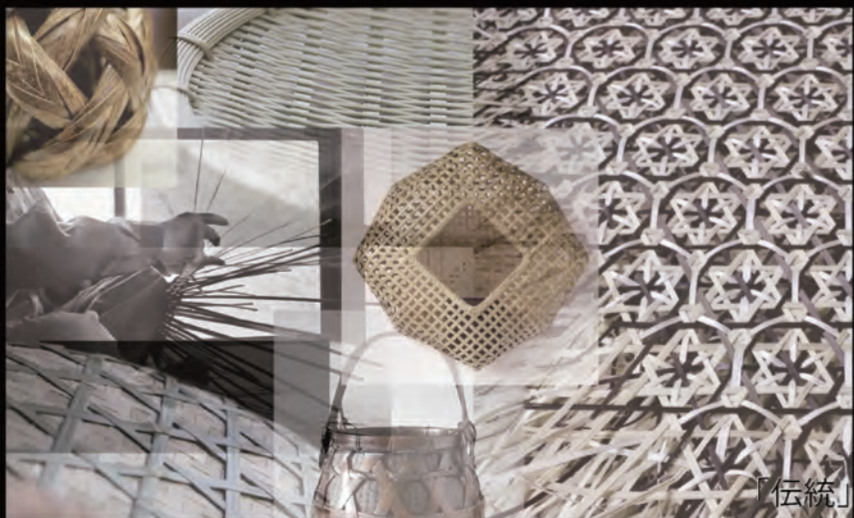
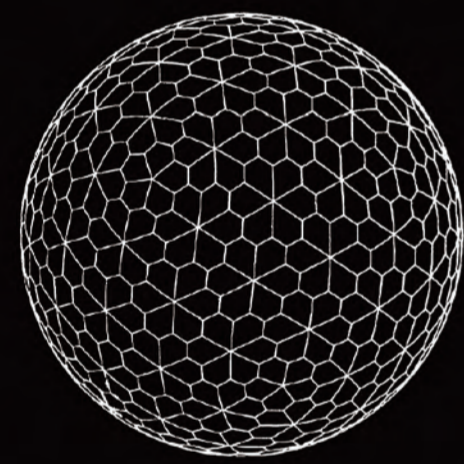
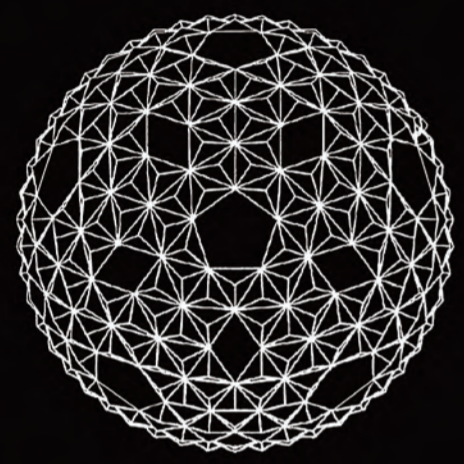


結束バンドで接続する。簡単に固定、解体が可能になる。

φ4のワイヤー状になっている形状記憶合金で構成された球体を基本モジュールとする。

◎ WIREFRAME

■ 場所の個性を生み出すワイヤーフレームのパターンとイメージ



◎ TRANSPORTATION

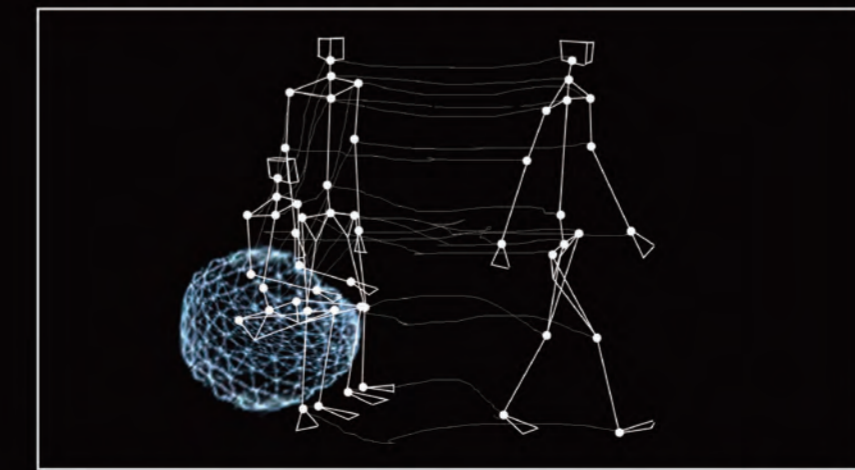
■ 運搬性能



形状記憶合金の特長である、「温度変化による剛性の変化」を利用することで、球体の単位モジュールを折り畳むことで運搬効率を高めることができる。低い温度で剛性が弱まるため、冷却が必要となる場合もある。

◎ MEMORY

■ 形状記憶と人々のふるまいの記憶



一定の温度を越えて形状記憶合金の復元力が発生するまでは、人々が使用した記憶が形態となって表れる。元の形に戻った後は、新たなふるまいの記憶が刻まれる。ある決められた使い方が延々と続くことに逆らった玩具である。

◎ ARCHITECTURE

■ 移る玩具、移る建築



「移る玩具」は形を変え、場所を変え、内包する用途を変えながら、人々に、都市に受け入れられていく。玩具が「子供が遊ぶためのもの」という概念から「人々のためのもの」に移った時、その時が「移る建築」が見出される時ではないだろうか。